

豊庄だより



第 699 号 2022 年 3 月 7 日

連日のウクライナに関する報道に接し、どうコメントすべきか……。とても考えられない事態に頭の中は混乱しています。キエフ公国という歴史を持つ、ウクライナ、ベラルーシ、そしてロシア。兄弟みたいな国と言いながら、ロシア（+ベラルーシ）はウクライナに攻撃を加えています。ウクライナの首都キエフは、日本の奈良や京都のような歴史ある都市で、そこが今破壊されています。軍事施設への攻撃などと言っていますが、市民の住宅、病院などが被害にあうという無差別な攻撃です。

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

戦争の発端は、東部のドネツク人民共和国、ルガンスク人民共和国を独立させ、それをロシアが承認することから始まりました。2つの地域はロシア系の人が多く（ウクライナにはウクライナ人とロシア人が7：3くらいの比率で構成）、東部の地域はロシア系の人がかかなり高くなっているといいますが、一方的に独立をさせるなんて、こんなことがはたして国際法的に通用するのか？このニュースを見て、私はかつて日本が中国の東北地方に、満州国を作ったという歴史を思い出しました。その後、日本は国際的に孤立し、多くの犠牲を払うことになりました。「歴史を教訓としよう」とこれまでずっと叫ばれてきましたが、ウクライナにおける戦争は、それを踏みにじるものとなっています。



「歴史の教訓化」と言えば、東欧諸国において、1956年の「ハンガリー動乱」、1968年の「プラハの春」についても思い出します。（当時の）ソ連は、民衆を犠牲にする武力弾圧を繰り返してきました。ソ連、ロシアといえば、文豪ドストエフスキー、トルストイの国です。また、音楽家も、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフ等、美しい旋律を持つ作品を私たちに届けてくれた国です。私は、ソ連、ロシアの歴史を断片的に知っているだけで、深くは学んでいませんが、今回の戦争は、豊かな文化を台無しにする暴挙であることは確かです。もう一人、音楽家を忘れていました。ショスタコーヴィッチです。彼の作品に『森の歌』（1949年）という合唱曲（オラトリオ）

があります。私が中学生の頃だったと思いますが、家にこのレコードがあり、豊かな歌声に魅了され、何度も聴きました。ロシア語で歌っているため歌詞の内容はわかりませんでした。しかし、その後、歌詞の日本語訳を知り、驚きました。国家が推進する大規模な植林事業を称える内容だったのです。ショスタコーヴィッチは、（当時の首相）スターリンから自分の音楽活動を批判され、やむなくスターリンを礼賛する『森の歌』を作ったのです。とはいえ、この曲の中には、ロシア民謡『鶯（うぐいす）は静かに幸せの歌う』の美しいメロディが全曲を通して用いられ、それだけにショスタコーヴィッチの苦悩が想像できます。

さて、保育園では、今週末に卒園式を迎えることになりました。ずいぶん暖かくなり、春の香りが漂ってきました。今日の朝の会は、「福寿草」の話をしました。梅の花が終わりになるころ、福寿草は土の中から目を出し、つぼみを持ち上げ、その後、黄色の美しい花を咲かせます。花が終わると、葉から茎まで全部枯れてしまいます。しかし、次の年の春には再び花を咲かせ、「ああ、ここにあったんだ、よくまた咲いてくれたね」という気持ちになります。今号は、ウクライナのことを書きましたが、平和を取り戻し、花の美しさを美しいと思える日が早く来ることを願っています。

